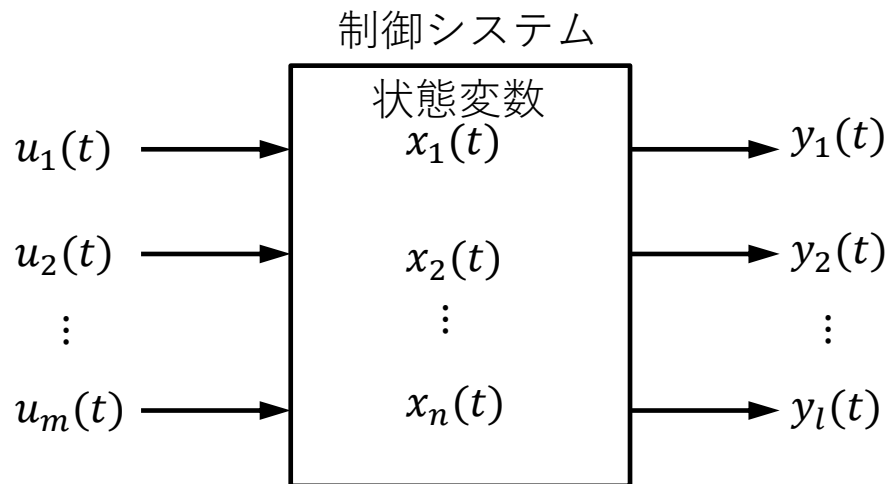


制御 (44) 《現代制御理論：状態方程式》



入力変数
ベクトル

$$\mathbf{u} = \begin{bmatrix} u_1(t) \\ u_2(t) \\ \vdots \\ u_m(t) \end{bmatrix}$$

状態変数
ベクトル

$$\mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \\ \vdots \\ x_n(t) \end{bmatrix}$$

出力変数
ベクトル

$$\mathbf{y} = \begin{bmatrix} y_1(t) \\ y_2(t) \\ \vdots \\ y_l(t) \end{bmatrix}$$

$$\dot{\mathbf{x}} = \mathbf{A}\mathbf{x} + \mathbf{B}\mathbf{u} \cdots \text{状態方程式}$$

$$\mathbf{y} = \mathbf{C}\mathbf{x} \quad \text{又は} \quad \mathbf{y} = \mathbf{C}\mathbf{x} + \mathbf{D}\mathbf{u} \cdots \text{出力方程式}$$

- $\dot{\mathbf{x}}$ は、 \mathbf{x} の微分
- \mathbf{A} は、 $n \times n$ 次元の行列関数
- \mathbf{B} は、 $n \times m$ 次元の行列関数
- \mathbf{C} は、 $l \times n$ 次元の行列関数
- \mathbf{D} は、 $l \times m$ 次元の行列関数

制御 (45) 《現代制御理論：可制御性、可観測性》

可制御とは… 入力进行操作することで、制御システム内部を、任意の望む状態へ移行できること。

可観測とは… 出力を観測することで、制御システム内部状態を、完全に知ることができること。

$$U_c = \begin{bmatrix} B & AB & A^2B & \dots & A^{n-1}B \end{bmatrix} \quad \dots \text{可制御性行列}$$

U_c のランクが n であると可制御である。

$$U_o = \begin{bmatrix} C \\ CA \\ CA^2 \\ \vdots \\ CA^{n-1} \end{bmatrix} \quad \dots \text{可観測性行列}$$

U_o のランクが n であると可観測である。

行列のランク（階数）とは、
行列の基本変形を繰り返し、
零ベクトルにならずに残った
行（列）ベクトルの個数

< 行列の基本変形 >

- 2つの行（列）を入れ替える
- 1つの行（列）を定数倍（ $\neq 0$ ）する。
- 1つの行（列）に他の行（列）の定数倍（ $\neq 0$ ）を加える。

制御 (44) 補足 《特性方程式》

$\dot{\mathbf{x}} = \mathbf{Ax} + \mathbf{Bu}$ で状態方程式を表せるとき、

$|s\mathbf{I} - \mathbf{A}| = 0$ が特性方程式となり、古典制御理論と同様に安定性を論じることができる。※ \mathbf{I} は単位行列

すなわち、特性方程の根の実部が全て負であれば安定、1つでも正があれば不安定となる。

例) $\mathbf{A} = \begin{bmatrix} -3 & 1 & 0 \\ -1 & -3 & 1 \\ -1 & 0 & 0 \end{bmatrix}$ の特性方程式を求める。

$$s\mathbf{I} - \mathbf{A} = \begin{bmatrix} s & 0 & 0 \\ 0 & s & 0 \\ 0 & 0 & s \end{bmatrix} - \begin{bmatrix} -3 & 1 & 0 \\ -1 & -3 & 1 \\ -1 & 0 & 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} s+3 & -1 & 0 \\ 1 & s+3 & -1 \\ 1 & 0 & s \end{bmatrix}$$

$$|s\mathbf{I} - \mathbf{A}| = \begin{vmatrix} s+3 & -1 & 0 \\ 1 & s+3 & -1 \\ 1 & 0 & s \end{vmatrix} = s(s+3)^2 + 0 + 1 - (0 + 0 - s) = s^3 + 6s^2 + 10s + 1$$

制御 (45) 補足 《現代制御理論：計算例》

例) 以下のシステムの可制御性、可観測性を調べる。

$$\begin{aligned} \dot{\mathbf{x}} &= \mathbf{Ax} + \mathbf{Bu} \\ \mathbf{y} &= \mathbf{Cx} \end{aligned} \quad \mathbf{A} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -3 & -4 \end{bmatrix} \quad \mathbf{B} = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad \mathbf{C} = [-1 \quad -1]$$

\mathbf{A} ($n \times n$ 次元) なので、 $n=2$ である。

可制御性行列 $\mathbf{U}_c = [\mathbf{B} \quad \mathbf{AB}] = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & -4 \end{bmatrix}$ $\ast \mathbf{AB} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -3 & -4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ -4 \end{bmatrix}$ より

可観測性行列 $\mathbf{U}_o = \begin{bmatrix} \mathbf{C} \\ \mathbf{CA} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -1 & -1 \\ 3 & 3 \end{bmatrix}$ $\ast \mathbf{CA} = [-1 \quad -1] \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ -3 & -4 \end{bmatrix} = [3 \quad 3]$ より

\mathbf{U}_c を基本変形すると、 $\begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$ となるので、 $\text{rank } \mathbf{U}_c = 2$ $\therefore \text{rank } \mathbf{U}_c = n$ なので、可制御

\mathbf{U}_o を基本変形すると、 $\begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$ となるので、 $\text{rank } \mathbf{U}_o = 1$ $\therefore \text{rank } \mathbf{U}_o \neq n$ なので、不可観測